

イリノイ大学での生活もいよいよ5月に入った。渡米してからちょうど12ヶ月が過ぎたこととなる。大学では final exam の時期で寮や図書館には連日夜遅くまで残っている学生が多数見られた。気候は春の訪れを感じさせる清々しい毎日である。陽気な日には union 前の quad で日向ぼっこをしながら読書をしたりフリスビーやキャッチボールをしたりする学生が見られる。こういった風景もどこか懐かしくも寂しく感じるのは帰国日が迫ってきたからだろう。今回の報告は主として、現在履修している科目と講義を終えた感想、ミシガンでのカンファレンス（キャンプ）について報告する。

< 春学期の履修科目 >

- ・ ESL 114 : Introduction to Academic Writing
- ・ ME 330 : Engineering Materials
- ・ ME 390 : Seminar
- ・ PHYS 140 : How Things Work
- ・ ASTR 100 : Perspectives in Astronomy

ESL 114

この科目は academic な writing スキルを学ぶクラスである。この授業にも final exam に代わる research paper と presentation がある。先日、presentation を無事に終えることができ、また research paper の提出を行った。最後まで paper を書くことや presentation を行うことは難しかったが、いい仲間にも恵まれ最後まで楽しく受講できた。

ME 330

この科目は、曲げ、破壊、疲労、クリープ現象、腐食、磨耗などの現象がどのようにして生じるのか、また、このような現象をどのようにして防ぐのか機械構造をもとに学習するクラスである。Lab の実験対象物は金属とセラミックの二種類であり、熱処理と固形化処理を行うことでの構造変化の操作方法を学んだ。講義も Lab の内容も濃く特にディスカッションの時間はしばしば苦勞する時もあったが最後まで楽しく受講することができた。

ME 390

この科目は、Mechanical Engineering 専攻の学生を対象とした Seminar のクラスである。このクラスで講義を行う人の多くは現役の技術者なので、現在必要とされている技術や貴重な生きた意見を聞くことができた。また、多くの ME 学生（学部3年生）がこの授業を受講しており、皆これからの未来を牽引する技術者の卵であると感じた。

PHYS 140

この科目は、基本的な物理現象を学ぶクラスである。Exam は合計で3回あり、通常の講義に比べ終わる時期が早かった。この授業では多くのデモンストレーションを見ることができ、その簡易バージョンを Lab で体験することができた。講義、Lab 共に非常に楽しく受講することができた。

ASTR 100

この科目は、太陽・惑星・月・星等を題材とした惑星の動きや星の観測方法、光の反射や屈折などの原理・現象、望遠鏡の仕組みや種類など、物理現象を元に解説される天文学の基本的な知識を学ぶ授業である。夜空に輝く星達にも歴史があり物理現象を交えながら学習する講義は楽しいものであった。初めて天文学を受講したが、最後まで興味を持って受講することができた。

Chapter Focus Week

5月17日～5月23日にかけて、ミシガン州のキャディラックと言う町の近くで行われたカンファレンスに参加した。そこはシャンペーンから車で7時間ほどの距離にあり、キャンプサイトはTimber Wolf Lakeと言う自然溢れる所だった。アメリカ全土にいるインターバーシティの学生達が、学期末に各地で開催されるCFWにこぞって参加する。私が参加した週は、イリノイ大学から200人ほど来ており、その他の大学からも100人ほど参加していた。

私がInternational Friendship Link(IFL)からCFWの情報を聞いたのは一ヶ月ほど前のことで、IFLの友人は以前にも参加した経験があり、非常に充実した時間と感動を経験することができたと語ってくれた。私は1年間の留学で英語は元よりbible studyに参加し勉強してきた。そこで、このCFWを留学最後の総復習として参加することに決めた。

5月17日(日)早朝からシャンペーンを離れキャンプサイトへと向かった。午後3時頃キャンプサイトに到着し、その後registrationを済ませ指示されたロッジまで荷物を運んだ。私が一週間寝泊りするロッジはバンクベットの8人部屋であった。午後からは各自申し込みする際に選択したトラックの説明会に参加した。ここでのトラックは7個に分かれており、私はconvergeと言うトラックを選択した。Convergeと言うトラックは、まだクリスチャンではないけれど、興味がある人、または、クリスチャンではあるが、信仰生活がドライに感じている人などのためのトラックである。実際に参加して分かったことだが、convergeに参加しているクリスチャンは決して自分の信仰心がドライに感じている人たちばかりではなかった。むしろ、もっと深く学びたいと強く思う人たちが集まっていたように思えた。トラックの構成は聖書の初めから終わりまでの主なストーリーラインを学び、また、スモールグループに分かれての分かち合いや意見のシェア、一つのグループで一つのアートを作るなど中身の濃い内容であった。

5月18日(月)～5月22日(金)は、午前中と午後2～3時間のトラックタイムがあり、トラックタイム以外は、食事、自由時間が設けられていた。自由時間にはハイキング、ボート、ジップラインと呼ばれる水上綱渡り、読書、おしゃべりなど各自が自由に楽しめる時間であった。私の自由時間の過ごし方は基本的に外に出掛け、バレーボールをやっているグループに混ぜてもらったり、フリスビーをやったり、ボートやジップラインにチャレンジするなど活発的に行動した。参加している学生は皆オープンですぐに仲良くなることができた。夕食後は全体集会があり、みんなで賛美して聖書のメッセージを学んだ。ここでも、違うグループに分かれるなどして新たな友人を見つけることができた。5月23日(土)は、主に移動日でキャンプ場を朝7時30分に出発しシカゴへと帰った。

この一週間のCFWに参加して、たくさんの新しい友人に出会えることができ、また、多くの貴重な体験をすることができた。秋学期、春学期と毎週、J-HOP、Illini Life、IFLに参加し、bible studyを通して学んできたことの総復習ができたと思う。新しい人と出会い、意見を交わすことで今までには見えなかったものや考え方、捉え方、視野が広がったと思う。この一週間のCFWは私にとって本当に貴重な時間となった。アメリカに留学し、このようなカンファレンスに参加できたことを本当にありがたく思う。



図 1-1. Chapter Focus Week

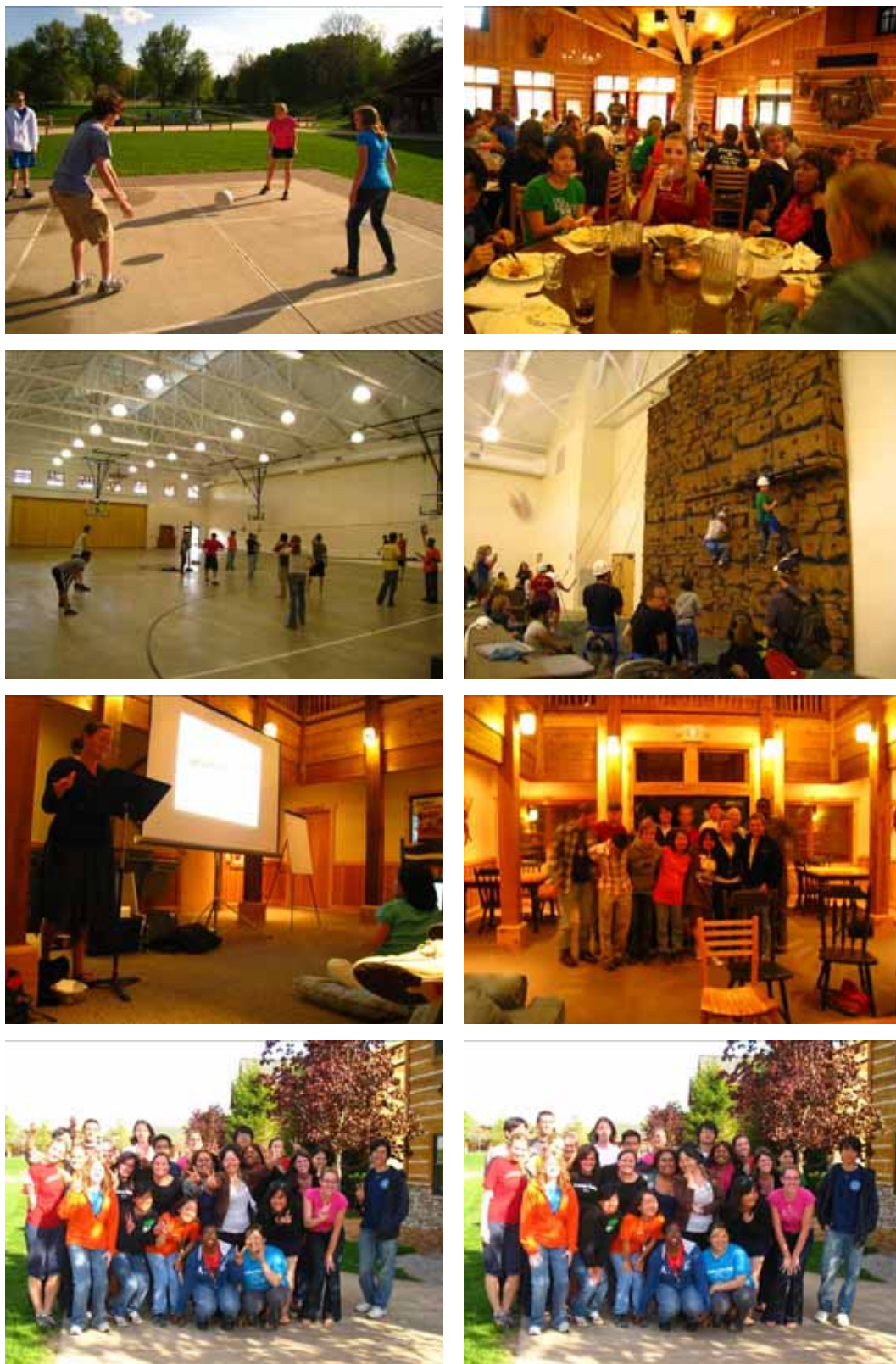


図 1-2. Chapter Focus Week

留学のまとめ

昨年の5月30日に渡米してから一年間続いていた交換留学プログラムも終了しようとしている。一年間本当に有意義に過ごすことができ、また、充実した毎日を送ることができた。この交換留学の中で人との出会いの大切さを実感した。KITに6週間の交換留学をしていたChrisとは、たまたま住んでいる寮(Sherman Hall)が同じであったので簡単に会うことができた。会ってからはすぐに仲良くなり、同じ教会に通い、週に一度は会う友人となった。彼もまたartの道で頑張っており、語学勉強にも力を入れている。秋学期・春学期を通して conversation partner として常に私の英語のみならず生活のサポートをしてくれたStaceyは本当に心優しい最高の conversation partner であった。Staceyが私をStaceyが所属するIllini Lifeに呼んでくれた事から、新しい友人にも巡り合え、毎週の conversation time や土曜日のサービスを有意義に過ごすことができた。また、Staceyの人柄もあり私が所属していたJ-HOPのイベントに招待してからJ-HOPのオフィサーとStaceyの間でも新たな友情関係が生まれ、コミュニティーの枠を超えた深い信頼関係で結ばれることになった。帰国前にStaceyが私に言ってくれた言葉「私は今までに何人もの conversation partner を持ってきたけれど、Kenjiが一番だったよ」この言葉は今でも温かく心の中に残っている。Staceyもまた来日するそうでそのときには是非hang outしたいと思う。J-NETのgeneral meetingに参加してからJ-NETのメンバー及び会長とは兄弟のように仲良くすることができた。J-NETがオーガナイズするパーティーやイベントにはできるだけ参加するようにし、学生主体で作るイベントの楽しさを、身をもって体験することができた。また、J-NET会長宅には2度も宿泊させていただき、ご馳走を振舞ってもらい、本当にありがたく思っている。IFLは春学期になってから知人の紹介で参加したのがきっかけであるが、International Friendship Linkと言うだけあって本当にinternational studentが多かった。彼らとは春休み期間にセントルイスであったボランティア活動(City Lights)に参加し、学期末には本書にも書いたミシガンでのカンファレンス(Chapter Focus Week)に参加した。IFLと共に参加することで英語のみならず様々なことを学ぶことができた。ボランティア活動やカンファレンスに参加することで新たな友人を作ることができ、また、色んなことを吸収することができた。J-HOPにも本当にお世話になった。秋学期・春学期を通してフルで活動を共にし、一緒に勉強することで友情関係が深まり、毎週のbible studyではbibleのみならず映画鑑賞やゲームナイトなど楽しい時間を過ごすことができた。J-HOPのメンバーと行ったシカゴ旅行は一番の思い出の一つでジョンハンコックから見る夜の夜景は本当に美しかった。さらに、毎週金曜日のLarge GroupのサービスではCFCのメンバー600人と一緒にChristian songを唄い、歌の完成度とメンバーのCFCに対する思いが感動として伝わってきた。ほとんどのコミュニティーは学生が主体となって行っているが、その規模は大きい。少し羨ましく思うところもあるが、こんな人達の輪の中へ入れたことが本当に幸せだと感じている。このように数々のコミュニティーの中で育まれてきた友情は帰国しても変わらないだろう。

最後に、今回の交換留学の機会を与えて下さり、留学中に暖かいサポート並びに、親切なアドバイスをいただいた国際交流室札幌野順教授をはじめとする国際交流室のスタッフ関係各位、留学前から帰国後のスケジュールまで親身になって考え、サポートして下さった教務部長佐藤恵一教授をはじめとする金沢工業大学のスタッフの方々、月例報告書を通し研究活動の情報を常に知らせてくれ、留学中も親身に指導して下さった畝田道雄准教授並びに研究室の皆様、この交換留学を心から喜んでくれ、留学することに賛成してくれた両親に感謝の意を込め厚く御礼申し上げます。

以上